

夷耶馬・鷺巣岳地域の 水生動物

堅来川、竹田川、竹田津川、伊美川の上・中流域から十地点と、藤原ため池、山ヶ鼻ため池の二つの池を選んで、主に水生昆虫の生息状況を調べました。底生動物（トンボ、カワゲラなど昆虫の幼虫や貝の類、エビ、カニの仲間などは、塵取り型金網で、魚類は、投げ網・たも網を使って採集しました。



竹田川夷谷温泉下流(下の写真で奥の橋下 1995)



夷谷温泉下流で採集した水生動物



工事中の夷谷温泉下流(1998)

トンボの類が目立って多い

竹田川の源流域にあたる夷谷温泉の橋の下流では、池沼や丘陵地の小流に生息するタイコウチやトンボの仲間が多く、魚類のタカハヤ、カワムツ、ドンコも確認しました。水質は、「きれい」から「すこし汚れている」の範囲のようです。

コンクリート固めの川

この地域の川は、源流近くまで集落や水田などがあり、農耕地への灌漑に重点をおいた治水・利水を行った様子で、ため池を造ったり、川岸も川床もコンクリート固めにして堰を沢山設けるなど、ほぼ全域にわたって手入れされています。したがって、一般の川の上流のように、森林内の溪流と呼ばれるような部分がほとんど見当たらず、水量も少

なく流速もおそいので、水温が夏季には30℃(深耶馬溪では20℃前後)くらいになります。このようなことから、どの川も水生動物にとって恵まれた環境とはいえません。

カワムツが群生している淵

下の写真は、竹田川の中流域にあたる上佐古付近の淵です。ここではコンクリートの堰で出来た淵の連続状態です。投げ網でカワムツ、ギンブナ、コイ、ドンコなどが採集できました。

この地域の川にはオイカワがいないとされていますが、その代わりに上流から中流の淵にすむカワムツが、平野部といってよいこの地域まで沢山認められました。浮葉植物のヒシの類が川に生育しているのは珍しいことです。川というよりも、池沼の特徴が沢山入り込んでいることがうかがえます。

ヒシの類が群生している中流域の淵(竹田川上佐古)



1回の投げ網に16匹のカワムツがかかった



汚れに強いギンブナ



カワゲラ、トビケラの種類数が少ない川

水のきれいな普通の川では、トビケラ類が最も多く、カゲロウ類、トンボ類、カワゲラ類と続くといわれています。調査した川の中では、伊美川が「きれいで平均的な川」に近いことが分かります。



伊美川赤根公民館脇の渓流



コバントビケラとその筒巢
トビケラの類は砂粒や小枝、木の葉などを綴って巣を作っているものが多い。



赤根公民館脇で採集した水生動物

水生動物の種類数が最も多かった渓流

夷耶馬・鷺巣岳地域で最も沢山の種類の水生動物を採集できた地点です。川で水生動物が多く生息している場所は、人の頭大からこぶし大くらいの石がゴロゴロしている水のきれいな早瀬・平瀬です。写真のような部分も50mくらいの範囲で、これより上流も下流も森が開け、コンクリートで固められていました。

生物相が不安定なため池

多くのため池は秋までに完全放水していて、ほとんど水生動物が生息できない状態です。水が残っている池は、とても水深が深く、岸辺に水生植物が生育しているような環境が少ないので、水生動物の生息にはあまり適していません。

榊来川源流域の山ヶ鼻ため池



ヤマアカガエル



メダカ



写真中央奥の池頭に、榊来川の源流が流れ込んでいる辺りの浅い部分で、ふつうは湿地や水田で繁殖するヤマアカガエルの大きい成体と、メダカ2匹を確認しました。ヤマアカガエルは日本固有種、メダカは流れのゆるい水路を好むが最近では減少しています。

(◎スケールは全部10mm)